

KJQ・PAPER

〈心の基礎〉リサーチ

代表 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 会長 菅野 純

創刊準備号
No.000

2012 August

発行人 〈心の基礎〉教育を学ぶ会 事務局長 蓑地一夫

事務局 株式会社実務教育出版 〒163-8671 東京都新宿区新宿 1-1-12 TEL 03-3355-0921 kjq@jitsumu.co.jp

「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」 発足にあたって

〈心の基礎〉教育を学ぶ会 会長
早稲田大学 教授

菅野 純



Kanno Jun

私が教育カウンセリングの仕事に入って10年ほどたった頃、こんな疑問を抱くようになりました。それは、学校で先生方が同じことを子どもに投げかけても、教えがしっかり根付きその子の成長につながっていく子どもと、根づかない子どもとがいることです。その違いとは何なのだろうか？と。

そうした疑問を抱きながら、学業不振、不登校、いじめ、反社会的問題行動といったさまざまな教育課題にカウンセリングという立場からかかわってきました。ある時期から私は、その違いが、知的能力の問題というよりも、子どもの心の中に、教えが根づくための土台のようなものがしっかりと形成しているか否かの違いではないか、と考えるようになりました。

わが国の学校教育は「勉強さえできればそれでよし」とする教育ではありません。子どもたちの心について常に目を向けようとする教育です。私は、先生方の基本的な姿勢としてある「生徒理解」力をより豊かにし、現代の子どもに届く教育を実現していくには？と考えるようになりました。それを「〈心の基礎〉づくり」として、学校の先生方に提案するようになったのです。「心のピラミッド」という教育モデルで初めて先生方に提案してから、30年がたちました。この30年間に、さまざまな事例を積み重ね、「〈心の基礎〉づくり」の有効性を確かめてきました。それが中

学や高校の先生方と共に開発した「KJQ」という心理検査に結実したのが2002年のことです。さらに2011年には若い研究者の方々と共に、採点をコンピュータ化し、クラス集団の分析も可能にした『KJQマトリックス』を世に送り出すことができました。これら2つとも、私が長年学校現場の先生方と共に考えてきた「〈心の基礎〉づくり」が土台になっています。

このほど、〈心の基礎〉を踏まえた教育実践を互いに検討し合い、KJQの活用方法や事例研究を通して学び合う「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」を発足しました。この会は、子どもの心に届く教育をめざしている先生方であれば誰でも参加できます。今後は研究会を継続的に開催していきます。1回1回の研究会を大事にし、どなたでも気軽に参加できるように、研究会に細かな規定などは設けておりません。私も、参加される皆さんから多くを学びたいと思っております。

本誌「〈心の基礎〉リサーチ」は、「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」で学んだ成果を発信していくため創刊しました。次号からは内容をさらに充実させて、〈心の基礎〉を構築するための指導方法や共に学んでいる先生方の声をお届けしていきます。

ぜひ、「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」にご参加ください。子どもの心に届く教育をめざして一緒に切磋琢磨しませんか。

■ KJQ 開発の理由

・不登校になりそうな生徒がいる

・元気がない生徒がいる

・クラスの雰囲気がよくない

・いじめがあるかもしれない

学校の先生方の悩み

・クラスのまとまりがない

・生徒の考えていることがわからない

・問題行動を起こす生徒がいる

そんな先生方に、的確な生徒理解やいじめ・不登校予防、円滑なクラス経営をサポートするためのデータを提供したいとの思いから、KJQを開発しました！



菅野純会長

■ KJQとは

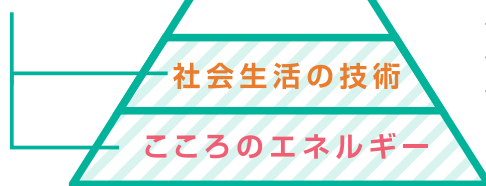
Kanno Jun(かんの じゅん) Questionnaire の略称で、Questionnaire は「質問紙」という意味です。**57の質問に答える**ことによって生徒の**心の発達状態を調べる心理検査**です。生徒が57の質問に「はい」「ややはい」「ややいいえ」「いいえ」から1つを選んで回答します。回答時間はおよそ10分です。

■ KJQで調べること

こころの土台

穏やかな気持ちで人と関わったり意欲的に物事に取り組むために必要な生徒の行動を支えている基盤のことで、「**こころのエネルギー**」と「**社会生活の技術**」の2つの部分からできています。

こころの土台
(KJQで調べる部分)



生徒の行動を支える「こころの土台」

しっかりした土台があって初めてできること。

- 例・自分の力を十分に発揮する。
・世の中で活躍する。
・豊かな心で人と関わる。
・積極的に取り組んでいく。
・広い視野をもつ。

「こころのエネルギー」

- ・元気のもとややる気のもととなるもの
- ・自己発揮の原動力となるもの

3つに分けて考えます。

安心感

楽しい体験

認められる体験

「社会生活の技術」

- ・集団場面や社会的場面で自分の力を発揮するための力
- ・他人と折り合いをつけて生きるための力

6つに分けて考えます。

自分の気持ちを伝える技術

自分をコントロールする技術

状況を正しく判断する技術

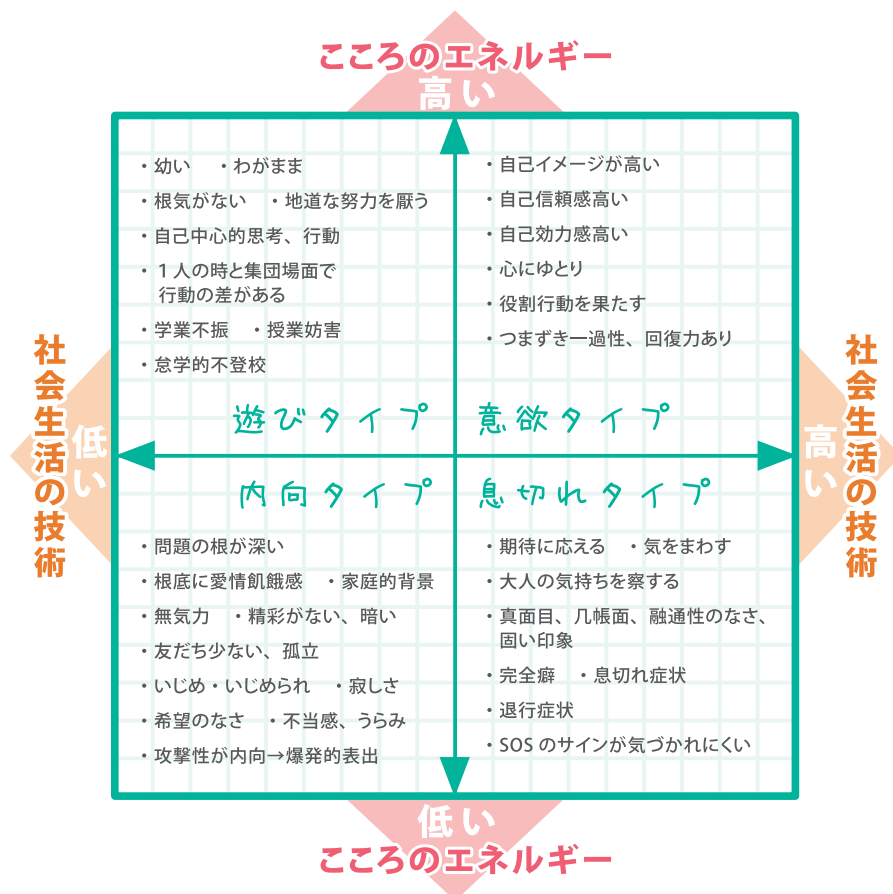
問題を解決する技術

人とうまくやっていく技術

人を思いやる技術

マトリックス 4つのタイプ

マトリックスとは、縦軸に「**こころのエネルギー**」を、横軸に「**社会生活の技術**」をとった図に生徒をプロットしたもので、4つのタイプに分かれます。クラスのマトリックスを見ればクラスがどのような「こころの土台」をもつ生徒で構成されているかがわかり、**クラスのように足を踏まえた個別の生徒への対応や支援**だけでなく、**クラス全体への働きかけを検討する際の有効な資料**となります。



KJQ の活用方法

教師は

生徒理解、生徒指導や教育相談、クラス経営に役立てることができます

- こんな生徒の結果をチェックする。
 日ごろ気になっている生徒 日ごろの理解と異なる結果が出ている生徒
 「こころのエネルギー」「社会生活の技術」の得点が極端に低い生徒
- KJQの結果を二者面談や三者面談で利用する。
- マトリックスから得られた情報を、クラスの間関係把握やクラス編成に利用する。

生徒は

自己理解、自己啓発をすることができます

- KJQの結果で自分の「こころの土台」の状態を理解する。
- 付録のワークブックで「こころの土台」を成長させるための具体的な方法を学ぶ。

KJQ には 2 種類あります

自己採点版『菅野 純の KJQ 調査』

- 実施時間：25 分 ○採点方法：複写式・自己採点方式
- 受検料：430 円(税込) ※ご注文は 10 部以上から

コンピュータ採点版『KJQ マトリックス』

- 実施時間：15 分 ○標準採点期間：10 日間
- 受検料：500 円(採点料・税込)

詳しくは実務教育出版 教育教材事業部まで。実物見本をお送りいたします!

tel: 03-3355-1801

<http://www.jitsumu-kyouzai.com/>

KJQ オススメボイス

KJQを活用していただいている学校の

Voice
声を集めました!!



福生市立福生第一中学校
校長 新藤美知子先生

『KJQ マトリックス中学校版』を全生徒に実施

生徒を見取る有効なものさしとなりました

低学力、問題行動、不登校という深刻な課題を抱える本校にとって、『KJQ マトリックス』は、改善に欠かせない客観的な生徒見取りの「ものさし」となりました。昨年 11 月に全校生徒に実施し、その結果は担任のより深い生徒理解にとどまらず、特別支援委員会を中心に全教員で共有し、関係機関を含めた有効な対応に繋がりました。またクラス経営や本年度のクラス編成にも生きた資料となりました。昨年の反省から今年度は 6 月末に実施し、生徒自身の振り返りと三者面談にもその結果を生かす段取りになっています。さらに昨年度の結果と比較して生徒の変容を追い、生徒理解校内研修会を実施する予定です。



藤枝市立藤枝中学校
養護教諭
増田みちよ先生

『KJQ マトリックス中学校版』を中学校 1 年生に実施

新しい出会いから

10 年ぶりの転任、同じ市内であるのに前任校とは生徒集団がかなり違いました。“エネルギー”で“自己主張が強い”生徒の側面に振り回され疲れている自分たちに気がついた 6 月、自校の「個と集団」の状態を知ったうえで指導に当たりたいと願い『KJQ マトリックス』の活用を提案しました。

これまでの経験知だけでは対応できない子どもに出会うことが多くなってきました。「自分の『ものさし』だけで見る（診る）べからず」——縁あって出会うことのできた目の前の子どもの育成と教職員の連携・協働の作業に、これから『KJQ マトリックス』が示唆を与えてくれるはずです。



東京都立椏ヶ丘高等学校
教諭 山崎茂雄先生

『KJQ 調査』を高校 1 年生に実施

KJQ の考え方を生徒自身が活用できる

本校は、不登校経験を持つ生徒のための三部制定時制高校である。新入生は 4 月と年度末に『KJQ 調査』を受け、2 回の結果を比較してレポートを書く。それらを読むと、不安な思いで入学してきた彼らが、本校で居場所を見つけ、1 年で大きく成長している様子が見て取れる。「KJQ の数値は変わっていないが、人とうまくやっていく技術は身につけてきたと、自分では思う」などの感想も多い。KJQ の「こころのエネルギー」「社会生活の技術」という考え方はとてもわかりやすく、生徒が自分自身を振り返り、今後どう成長したいかを考えるのに役立つ。

編集後記



ここに待望の「〈心の基礎〉教育を学ぶ会」が結成されました。年 1 回の研究会と本誌「〈心の基礎〉リサーチ」の発行を続けていきたいと思います。最初は一滴の雫から始まっても大海となることを望んでいます。（事務局 養地）